

【神戸川】

研究目的

神戸川では河口部においてヤマトシジミが漁獲されている。近年、河川改修による川幅の拡大などでシジミの生息域が拡大し漁獲量は増えつつあり、平成 22 年には約 40 トンの漁獲があった。しかし、これまで神戸川でヤマトシジミの生息状況等の調査が行われていないため、資源量等の知見が乏しい。そこで、ヤマトシジミの生息状況を調査して、資源管理の礎を築く。

研究方法

① 生息状況調査

調査は平成 23～25 年の夏季および秋季に実施した。調査場所は神戸川河口部のシジミ漁場内の図 9 に示した 14 地点（平成 23 年は 7 点）で、水深は 0.6～1.8m、川幅は約 200m であった。シジミの採捕方法はスミス・マッキンタイヤ型採泥器を使用し、目合 4 mm の網でふるい、ヤマトシジミの個体数および重量を調べた。

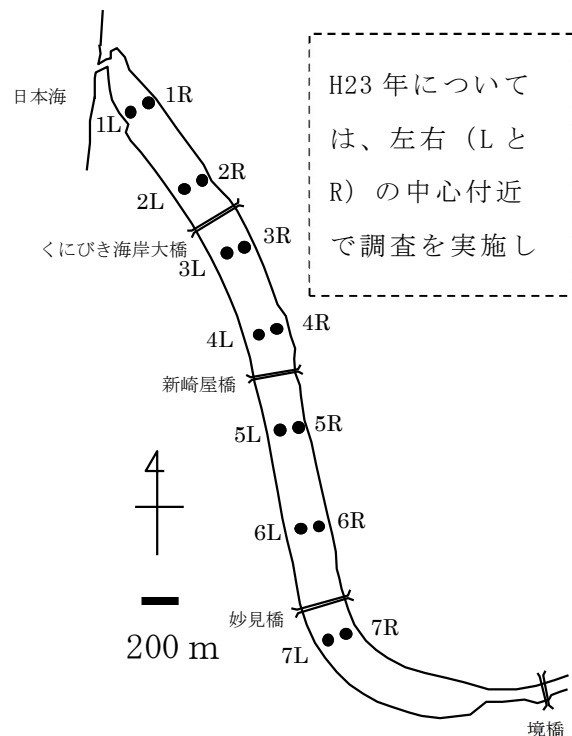


図9 神戸川河口部の調査定点

研究結果と考察

① 生物調査

表 1 にヤマトシジミの 1 m²あたりの生息個体数および生息重量を示す。3 カ年を通して生息個体数および生息密度が高いのは、河口に近い定点 1（H24-1R、H25-1L、1R）のみであり、その他では平成 24 年の 5R、6R、7L、平成 25 年では 2R、5R であった。

生息重量（平均）は 218～253g/m²であり、これは同時期の宍道湖のシジミ漁場と比較すると 1/10 程度の水準であった。

また、漁場には禁漁区が設定されているが、禁漁区の生息密度が高い傾向は見られなかった。

表1 ヤマトシジミの生息個体数 (/m²) および生息重量 (g/m²)

調査時期	生息個数			生息重量		
	H23.08	H24.10	H25.09	H23.08	H24.10	H25.09
1L	1,680	168	1,064	1,066.2	79.7	661.5
1R		1,134	700		435.5	484.0
2L	140	84	98	28.0	17.1	106.4
2R		294	686		125.3	363.7
3L	224	140	98	250.6	52.8	119.6
3R		154	112		77.7	160.0
4L	42	154	266	50.3	95.9	256.9
4R		56	140		43.4	208.2
5L	0	70	0	0.0	73.5	0.0
5R		686	364		749.6	679.1
6L	0	224	196	0.0	448.3	262.2
6R		672	14		873.3	5.5
7L	42	546	126	130.8	583.5	194.7
7R		126	28		201.6	44.7
平均	304	322	278	218.0	275.5	253.3

この調査ではシジミ資源量の推定は難しいが、漁場面積から算出すると神戸川のシジミ資源量は数十トンから数百トンのレベルと推定された。

残された課題

漁獲量は増加傾向にあるが、3 ヶ年の調査結果からは資源が増加した様子は伺えない。資源を維持して漁業を継続するためには漁獲制限などの資源管理が必要である。